



9月の花：コスモス

事務所便り

令和4年9月号

特定社会保険労務士・行政書士 重村 勝弘
 重村行政労務管理事務所
 ご連絡先：〒235-0021
 ：横浜市磯子区岡村 7-8-15-102
 電話・FAX：045-754-3412 携帯：070-5542-1466
 E-mail：shigemura.office@etude.ocn.ne.jp

●ロシア侵攻から半年

圧倒的戦力を有するロシアがウクライナに侵攻して8月24日で半年がすぎた。

2月24日、ロシアはキーウ正面、東部ドンバス正面、南部ヘルソン正面の3方向から侵攻し数日以内にウクライナ全土を占領するとみられていた。しかしながら、ウクライナの頑強な抵抗にあい、半年経過した現在戦線は膠着している。

開戦時の戦力比較

	ロシア	ウクライナ
総兵力	90万人	26万人
予備役	200万人	90万人
軍事費	617億ドル	59億ドル
戦闘・攻撃機	1500機	100機
戦車	12400両	2000両
艦艇・潜水艦	600隻	25隻

ロシアが圧倒的に優位に立っていた。

両軍の損害

	ロシア	ウクライナ
兵員の戦死負傷	7~8万人	35000人
民間人の損害	0人	30000人
戦車	1880両	400両
歩兵戦闘車等	4152両	1300両
ミサイル発射機	1252両	700両
軍艦・ボート	15隻	0隻
航空機・ヘリ	429機	不明

損害については詳しいデータが表明されていない。

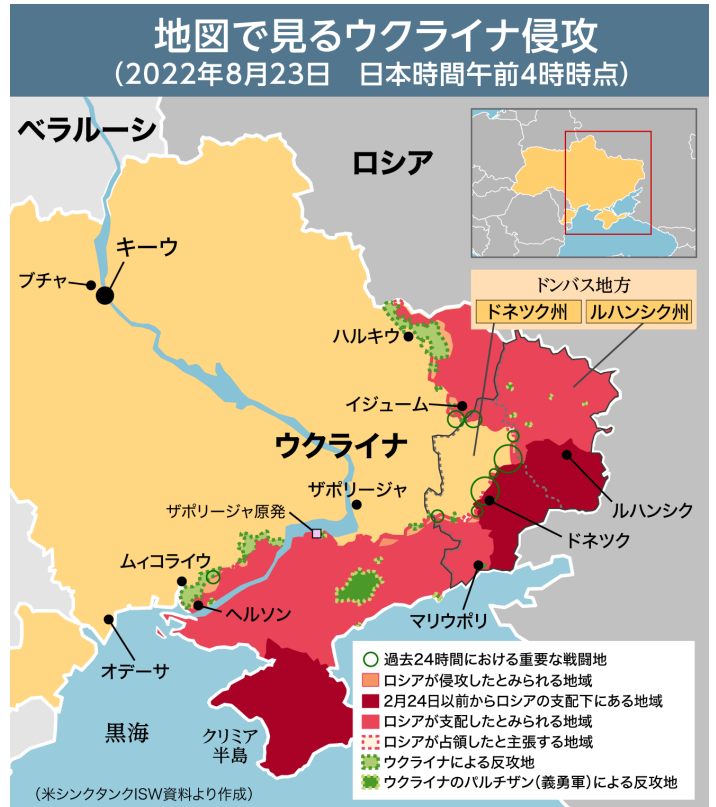
現在の動向

特に7月以降、西欧諸国からの本格的支援の戦力化が進み、南部地区でウクライナ軍の反撃が始まっている。8月に入り南部地区においてウクライナ軍が攻勢を強め、ヘルソン州で少しずつ領土を回復している。

また、クリミア半島において、ロシアの軍事基地等に対する攻勢を強めている。

現在において両軍の勢力は拮抗しており大きな戦況の転換は望めない。

8月下旬における勢力図は次のようになる。



侵攻6か月の教訓

この間の教訓を考えてみよう。

1. 指導者の資質

ウクライナのゼレンスキー大統領
 卓越した統率力、発信力、交渉力の持主
 ロシアのプーチン大統領
 専制独裁的な誤判断の連続

2. 全体主義陣営と民主主義陣営の戦い

ウクライナとロシアの戦争から主義の戦争へ

3. 制限された奇妙な戦争

ロシアの核の脅威をちらつかせた戦争
 ロシア本土への攻撃の制限

4. ハイブリッド戦争の典型

正規戦、非正規戦、サイバー戦、情報戦など
 多用した戦争、特に開戦前からのサイバー戦は熾烈を極めた。

5. 戦場外での経済戦争

西側諸国 経済金融制裁

ロシア 天然ガス・石油の輸出制限

両陣営の経済制裁合戦であり、長期戦になると 世界経済への影響が拡大

今後の見通し

ロシア軍の状況

侵攻戦力の半分近くを損耗しており新たな作戦を遂行する能力を持っていない。このためプーチン大統領は13万7千名の新規募集を来年の1月1日を目標に決定した。

ウクライナ軍の状況

固有の装備は旧ロシア製の兵器が主体であり、西側諸国からの支援兵器で戦力を増強しているが、戦局を転換するまでの勢いはない。このような体制で両軍ともに現在の戦局を転換するだけの戦力は有していない。今後とも現在の戦線で一進一退を繰り返すことになる。加えて、11月以降冬季に入り戦力の異動は困難となり戦線は膠着するだろう。

西側諸国の支援

米国および西欧諸国のウクライナに対する軍事支援およびロシアに対する経済制裁は時間の経過とともに「支援疲れ」が現れ、またロシアによる天然ガス及び石油の輸出規制により支援の輪が緩む可能性が在る。

世界への影響

ロシアのウクライナ侵攻に伴う世界規模での食糧の不足、物流の混乱、天然ガス・石油の高騰等により世界経済は未曾有の混乱に陥っている。

また、各国ともあたらしい安全保障戦略の見直しを迫られている。

日本への影響

ロシアのウクライナ侵攻は日本に対しても大きな影響を及ぼしている。

- ・電気・ガス・石油の高騰
- ・魚介類を始め消費者物価の高騰
- ・自動車はじめ主要輸出品の生産量の低下
- ・北方領土・対露外交政策の見直し
- ・対露、対中・対台湾安全保障政策の見直し等

世界にとって、日本にとって戦争の早期解決が切望される場所である。



pixta.jp - 78138189

ウクライナの花

●「健康のため水を飲もう」推進運動(厚生労働省)

目覚めの一杯、寝る前の一杯。

しっかり水分 元気な毎日！

体の中の水分が不足すると、熱中症(ねっちゅうしょう)、脳梗塞(のうこうそく)、心筋梗塞(しんきんこうそく)など、さまざまな健康障害(しょうがい)のリスク要因となります。

健康のため、こまめに水を飲みましょう。

私たちが生きていくために「水」は欠くことのできない存在ですが、その摂取量が不十分であることによる健康への障害が多くの悲劇を引き起こしています。児童生徒等を中心にスポーツなどに伴う熱中症による死亡事故は後を絶ちません。また、中高年で多発する脳梗塞・心筋梗塞なども水分摂取量の不足が大きなりリスク要因のひとつとなっています。これら脱水による健康障害や重大な事故などの予防には、こまめな水分補給が効果的です。

寝る前、起床時、スポーツ中及びその前後、入浴の前後、そしてのどが渇く前に水分補給を心がけることが重要です。

「健康のため水を飲もう推進委員会」では、「健康のため水を飲んで、熱中症や脳梗塞などの重大な事故から尊い人命を守る」。こういった運動を全国で広く展開し、

1. [1]こまめに水を飲む習慣の定着
2. [2]「運動中には水を飲まない」などの誤った常識をなくし、正しい健康情報を普及する
3. [3]水道など身近にある水の大切さの再認識により、子どもから高齢者までの広く国民一般の健康増進、疾病・事故予防に寄与する活動を行っています。

水を飲んで健康維持しよう